

情報誌「燦」と一緒に
編集してみませんか。
興味のある人は
ご連絡ください。

●男女が共に活躍できる社会を目指して

「燦」とは……

燦（さん）という言葉には、「鮮やかに輝く」という意味があります。男女が性別にとらわれることなく、ひとりの人間として尊重し合い、社会の中で充実した人生を送れるように、そして社会の対等なパートナーとして活躍できるみんなが輝く社会を目指して、この情報誌をお届けします。

高橋 幸子 さん 産婦人科医／埼玉医科大学 医療人育成支援センター・地域医学推進センター助教／「彩の国思春期研究会」代表理事

全国の小・中学校・高等学校で年間100回以上の性教育の講演を実施。NHK「あさイチ」、「ハートネットTV」、「夏休みラジオ保健室〜10代の性 悩み相談〜」などに出演。テレビ、インターネットなど番組の医学監修を行う。

【著書】サッコ先生と！からだこころ研究所〜小学生と考える「性ってなに？」(リトルモア)、「自分を生きるための<性>のこと SRHR(性と生殖に関する健康と権利)編」(少年写真新聞社)など。



性感染症などについて90分の講演を行わせていただいています。ゲームや、先生たちによるデートDVのロールプレイングなど、楽しくポジティブに学びます。保護者や地域の大人たちにも、一緒に参加していただきたいと思っています。昔は「寝た子を起さす」と言われていましたが、若者たちは知識を得るほど性行動に慎重になると、ガイダンスに示されて

海外では、思春期の若者が性について無料で相談できるユースクリニックというところがあります。東京都では令和4年度から「わかさば」という名称で始まりました。彩の国思春期研究会では、令和5年5月から月に1回ユースクリニックを開催しています。9月にはふじみ野市主催で開催し、最新の月経グッズや世界の避妊法の展示、若者を取り巻く性教育ドラマ「17.3 about a sex」の視聴とディスカッション、男子の避妊法などのミニ講座を行いました。性についての相談相手の1位は、女子は「母親」、男子は「誰にも相談しない」でした。男子にこそ性について堂々と相談できる場所が求められていると感

じます。性別に関係なく若者の相談場所を作っていきたいです。家庭での会話全てが性教育。日常からの会話の積み重ねが性教育だと思っています。5〜8歳は、自分を知ること、自分を大切に思うこと、自分を好きになること。9〜12歳は、違いを認め合うこと、差別をなくす、人と自分は違っていいと腹落ちすること。12〜15歳は、選択肢を知ること。15〜18歳は、自分でつかみ取ることに。これらを意識して子どもと接していきましよう。

レベル	年齢	目標
レベル1	5〜8歳	自分を大切に
レベル2	9〜12歳	違いを認め合う
レベル3	12〜15歳	選択肢を知る
レベル4	15〜18歳	自分で決める

編集後記

内閣府の調査では、「自分自身に満足している」と思う13歳〜29歳の若者は、諸外国では約74〜87%だったのに対し、日本は約45%だったそうです。包括的性教育が日本でも浸透し、子どもや若者の自己肯定感や幸福度が高まっていくといいなと思いました。

世界基準の性教育を届けよう

～子どもたちの健やかな性の発育のために毎日できること～

国際セクシュアリティ教育ガイダンス 8つのキーコンセプト

- ①人間関係
- ②価値観、人権、セクシュアリティ
- ③ジェンダーの理解
- ④暴力と安全確保
- ⑤健康とウェルビーイング(幸福)のためのスキル
- ⑥人間のからだと発達
- ⑦セクシュアリティと性的行動
- ⑧性と生殖に関する健康

私は性教育をしたくて産婦人科医になりました。大学5年生の時に性感染症の影響で不妊症につながるということを知り、「若い人たちに性感染症の予防法を伝えなくちゃ！」と思いました。これまでの性教育と言えば、生殖や身体の発育の事を指してきたと思いますが、包括的性教育では、人間関係、コミュニケーション、同意について学びます。その基盤には人権とジェンダー

「包括的性教育」で「まるごと人間教育」

今どきの性教育をご存知でしょうか。年間100回以上、全国の小・中学生、高校生向けに性教育の講演を行い、市内の中学校での講演も大好評な「サッコ先生」に、今話題の「包括的性教育」についてお話を伺いました。



平等があります。ユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス(以下ガイダンス)」は包括的性教育を学校で行えるようにしたものです。8つのキーコンセプト(左表)を4つの発達年齢段階に応じて積み重ねて学びます。厚生労働省では、ガイダンスに沿った教材「まるごと！まなブック」を作成しています。ホームページからダウンロードすれば、学校や家庭などで自由に活用することができます。



書籍紹介 ふじみ野市で開催したユースクリニック ミニ講座

家庭での会話全てが性教育。日常からの会話の積み重ねが性教育だと思っています。5〜8歳は、自分を知ること、自分を大切に思うこと、自分を好きになること。9〜12歳は、違いを認め合うこと、差別をなくす、人と自分は違っていいと腹落ちすること。12〜15歳は、選択肢を知ること。15〜18歳は、自分でつかみ取ることに。これらを意識して子どもと接していきましよう。

「全国すべての学校で「生命(いのち)の安全教育」」学校では、性交については扱わないという、いわゆる「はぐめ規定」があります。産婦人科医や助産師が講師として伺いますが、性教育は年に1回の特別な教育ではなく、人権やコミュニケーションは、日頃から先生と生徒の関わりの中で育まれていくものだと思っています。令和5年4月から「生命(いのち)の安全教育」が始まっています。性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないための教育です。プライベートゾーン、境界線(バウンダリー)、SNSでの性被害、デートDV、性的同意などを学びます。「性暴力とは何か」「被害を受けたあなたは悪くない」「だから大人に相談して」と繰り返し学びます。相談を受けた時にかけた言葉が、二次加害(セカンドレイプ)とならないよう、価値観をアップデートし、SOSを受け取る準備をしておく必要があります。

楽しくポジティブに性教育 保護者も一緒に

私は市内の中学3年生に、性の多様性・交際・性的同意・セルフレジャー・妊娠・避妊・また、子どもたちから性に関する質問をされたとき、自分で答えるのが難しくても「必ずあなたに答えてあげるから、ちょっと待って」と言って、性教育の本や絵本や「まるごと！まなブック」を手に入れてください。お子さんと一緒に読んで、思春期の場合は、机やトイレなどに置いたりして、情報を届けてあげましょう。保護者が同じ情報を共有していること、この本に書かれている事は何でも質問していいことなどを一緒に伝えてあげてください。直接保護者に相談できない場合は、信頼できる周りの大人たちやユースクリニックが子どもたちを守る仲間になっていくといいなと思います。地域で、家庭で学校でみんなで若者の健やかな性の健康を守っていきましょう。